

## ◆第2回魚津市総合計画審議会

日時：令和6年11月26日（火） 13:30～15:00

場所：第一会議室

参加者：委員15名（欠席6名）

企画部長、企画部次長、企画係2名

## 〈主なご意見〉

## 資料1：第1回審議会の審議結果について

- ・市民意識調査で誰でも回答できるフォームも作成したとあるが、同一人が二重に回答できたり、市外の方でも回答できてしまうものか？
  - ➡ 残念ながら出来る。R4調査のときも同様であった。  
ただし、設問数もかなり多く、そういった事例はそこまで多くないものとする。
- ・問1で転入者か元々の居住者か回答してもらっているが、集計では、この属性（転入者か否か）別に回答集計されたりするものか？
  - ➡ 回答者の属性別にクロス集計することを考えている。重要な視点だと思うので、取り入れさせていただきたい。

## 資料2：魚津市人口ビジョンと将来人口について

- ・②合計特殊出生率の推移  
人口ビジョンの目標とされている、出生率1.9程度（2030年）、2.07程度（2040年）を達成するための具体的な施策、取組はあるのか？
  - ➡ 重点施策事業である「不妊治療費助成事業」や「妊産婦健康診査事業」の他、出産後の支援である「保育料無償化事業」等の経済的支援、「こども相談事業」をはじめとした相談体制の充実も、幅広い視点では出生率向上に対する取組のひとつと考えている。
- ・⑤転出入の状況  
国籍別の内訳というのは把握できるものか？
  - ➡ 市民課のデータで把握可能と思われる。今後確認しておく。
- ・隣市の方が魚津市より地価が安い、とよく聞かすが、具体的にどのぐらい金額に差があるものか？本当にそれが理由なのか？
  - ➡ 自治振興会 伊藤会長が近隣市と本市の状況について回答。「魚津市がそんなに高いということではない。滑川市や黒部市は宅地開発が進んでいる。魚津市は宅地開発を進める施策をするべき。」  
企画部長「本市では市街区での宅地造成支援を行っている」と回答。  
次回以降の審議会に向け、価格等を把握しておくこととする。

## ・⑨地区別人口の推移

道下地区（減少率△0.9）は「駅が近い」という以外に、減少率が低い理由が分析できれば、今後の施策を考えるうえで役立つと思う。理由は把握されているか？

➡ 正確な理由は把握できていない。宅地やアパートがあり新たに住む選択をしやすいと思われる、ということしか言えない。

ご意見のとおり、重要なことと思われるので、可能な限り分析を行いたい。

**資料3：各施策の成果指標の進捗状況について**

・施策14.の成果指標、「市民1人あたりの図書貸出冊数」について、デジタル書籍分も含まれているか？

➡ 把握していない。また確認しておく。

**資料4：団体アンケート（ヒアリング調査）について**

・団体ヒアリングという記載もあるが、直接意見を聴きに行くということもあるということか？

➡ 前期基本計画作成のときは商工会議所青年部との意見交換の場を設けていた。今回は、基本的にはアンケートによる調査とするが、グループを絞って、市民意識調査では回答が得られない層（例えば外国人、移住者、子育て世代など）に、ヒアリング調査ということも検討している。

**資料5：魚津市の現況（参考資料）について**

・特段意見なし